

## 令和5年度 第2回我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会 議事録

開催日時 令和5年7月10日 午前10時から正午まで

会 場 我孫子市水道局大会議室

出席者 委員11名（1名欠席）、事務局11名（傍聴人3人）

### 【本議事録の表記に関して】

議事途中に出てくる学校名等について、次のとおり略記する。

布佐小学校：布小

布佐南小学校：南小

布佐中学校：布中

布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校の総称：三校

## 1 開会

（省略）

## 2 委員長あいさつ

それでは、第2回目の検討委員会を開催していきたい。

急に暑くなって、まだまだコロナを心配していたところに、今度は熱中症の心配をしながら学校は活動しており、本当に大変だなという感じがある。

また、コロナの方もぶり返しているような感じもあり、学校現場では対応に追われているような話も聞いており、委員の皆様には元気にお集まりいただき感謝したい。

## 3 各検討視点でのメリットデメリットについて

（委員長）それでは、式次第の3番目の各検討視点でのメリットデメリットというところであるが、事務局から資料が出されている。前回は子どもたち目線ということで割と話しやすかったが、今回は教職員の視点からというところで、この検討委員会の中では校長先生3名は話しやすいかとは思いますが、他の委員の皆様には少し分かりづらい部分もあると思うため、事務局から資料に基づ

き想定されるメリットデメリットを説明して、皆さんから質問や意見を募ると  
いう形で本日は進めていきたいと思うがよろしいか。

(委員全員了承)

(委員長) それでは、事務局の方で1番目の「学習指導」から説明を願う。

(事務局) ①②③の施設形態におけるメリットデメリットを説明(以下、事務局説明)。

(委員長) 説明について、質問あるいは意見等があればお願いしたい。

(委員) 布小について、児童数が少ない中でも学力を上げようとされていて、  
少ない教職員数の中でもチーム・ティーチング<sup>1</sup>(脚注参照。以下、TT)や  
教科担任制を少し入れているということを前回の会議で話していたが、現状は  
どのようにしているのかお尋ねしたい。

(委員) 学力が上がるというのは一朝一夕にはできないもので、まずは分かる  
授業の実践ということを行っている。それに加えて布小は非常勤講師(算数専  
科)をプラス1名いただいて、教科担任制を行っている。布小の場合は、音楽  
専科や書写担当のほか、算数専科を入れていただくことにより、算数の時間  
において教科担任制をとっている形である。

これは、人の配置による学力向上の手立てであるが、あわせて分かる授業の推  
進を行い、学力向上を図っている。

(委員長) 人員については、必ず配置されるというわけではない。その辺は状  
況がいろいろあるかと思う。南小はいかがか。

(委員) 南小の方が布小よりも教員の数が少ないという現状である。TTをし  
た方が効果的だと思うが、本校の場合は担任以外に配置された教員が1名のた  
め、その教員が副教務兼専科教員的な役割を果たしており、TTを行うには厳  
しいところがある。分かる授業の実践というところでは、職員の研修や校内の  
体制でやれることはやっているが、人の配置によって、どうしても小学校間の  
差が出ていると思うところがある。

(委員長) TTは人が足りないと感じるという意見をいただいた。教科担任制  
はどうか。

---

<sup>1</sup> チーム・ティーチング：複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画  
を立てて指導する方式

(委員) 本校では音楽主任も担任をもっており、かつ他の学年の音楽の授業も見ている。担任(音楽主任)不在の授業は副教務が見ており、結果的に教科担任制のようなシフトになっているところはある。

(委員) 教員の追加配置を期待していると、教科担任制はなかなか進められない。適正規模になり、1学年2クラス以上あれば、その学年の教員がお互いの専門性を生かして、例えば社会と理科で分担して教科を教えていくこともできる。3クラスになれば、プラスあと1つとして、図工と体育とか色々な形でできる。例えば、大きな学校であれば、学年4クラスほどあり、音楽は専科が入っており、あとは社会と理科、図工と体育というように5教科で専門性を生かした授業ができる。やはりある程度、適正規模以上になってくるとそういった専門的な教科指導ができると思う。

(委員) 今回、資料を早くいただき十分検討ができた。1番目の「学習指導」、2番目の「生徒指導」について、項目の②③のメリットの方がずいぶん大きいと思う。したがって、9年間小学校の教員と中学校の教員が合同でプラスアルファの授業ができるということで、②にするのか③にするかの結論としては出ないが、かなりメリットはあると思う。

(委員長) 項目ごとに進めていくが、読んだ段階ではメリットが多いので、②あるいは③になるか分からないが、小中一貫ということで取り組んだ方が良いのではないかという意見であった。

「学習指導」については、メリットが①から③に行くほど多いが、例えば③にした場合、あえてデメリットというのは何か考えられるのか。もし、事務局で想定をしていたら教えていただきたい。

(事務局) 文科省も義務教育9年間を繋いでいくということについて推奨しているので、基本的には推奨すべきものということで回答したい。

(委員長) 小中学校を繋いだ方がメリットが大きいということで、デメリットについては現状他の小・中学校でも抱えているようなものが、デメリットとしてはあるだろうが、一貫にしたからそれがもっと大きくなるということではなくて、メリットが大きい分、文科省の方も進めてほしいという話であった。

(委員) 前にも話したと思うが南小、布小それから布中にしても、地域に市街化調整区域という制約があり、人口が増える要素がない。児童生徒数が減っているというのが現状である。また、各学校にしても南小が46年、布小が48年、

布中も45年か、もうそのぐらい校舎の年数も経っている。このような現実問題を背負っており、それでまたバラバラにして単独でやるということは、子どもたちの学力が落ちると思う。親としては、子どもたちの学力が落ちることがデメリットとして大きいと感じる。そういう面では、生徒数、教員の数も含めて、やはり一体化して、子どもたちの学力を向上しながら、楽しくいろいろな行事や、そういうことができる環境を作ることが我々親の、地域の人たちの考えではないかなと思う。

(委員長) ソフト面だけでなく、ハード面で考えても、ゆくゆくは学力向上に繋がるというところで、保護者や地域の皆さんが心配するところは、子どもたちの学力はきちんとつくのかということである。その辺を見ても、やはり一体化した方が良いのではないかという意見であった。

次に、2番目「生徒指導」について事務局から説明を願う。

(事務局説明)

(委員長) それぞれのパターンについての説明があり、「生徒指導」に関していかがか。質問や意見があったらお願いしたい。

(副委員長) メリットについては①②③で共通する部分もあるため、デメリットについて注目すべきだと思う。メリットとデメリットを単純に比較するだけではなく、デメリットは別の施設形態にすれば解決できないか、など考える必要があると思う。

(委員長) 例えば、③のデメリット「学区が広がって子どもたちの行動範囲が大きくなるといういろんなトラブル予想されるのではないか」という点で、前回委員の皆さんからいくつか意見が出たと思う。学区が広がっても地域はしっかり子どもたちを見守っていると、そのような話が出ていた。学校だけでなく、地域みんなでサポートしていくということで、デメリットではなくなる可能性も大きいのではないかというふうに自身は感じたところである。

その辺のデメリットも含めていかがか。意見があったらお願いしたい。

(委員) 今の話にあった③三校一体型小中一貫校へのデメリットに関しての学区の話であるが、自身は前回の会議に不参加のため把握しきれていない部分もあり、自身もこれはデメリットとしてピンとこない感覚がある。話に出たように、地域の目もあるが、あまり変わらないような認識もある。確かに現状に比べて学区が広がるのは事実としてはあるが、教育上のノウハウや、文科省か

ら何か適正な地区エリアに関する適正規模みたいなものが既に知見としてあるのであれば、その辺りを教えていただきながら、本当にデメリットに入るのかを判断できたら良いと思う。

(委員長) 地域エリアの適正規模について、なかなか難しいと思うが文科省から何かそのようなものは出ているものなのか。学区だと、とても広い地区もあり、都内などは一角にいくつも学校がある地区もあるため、自身もエリアについての適正というのは、あまり承知してないところである。

(教育長) 小学校に関しては、国の方で出しているのは大体3km、3kmから4kmが学区の範囲だと思う。中学校に関しては、5kmというところがある。我孫子市の場合、多少超えるところはあるが、小学校は1.5kmくらいが大体の学区の範囲である。中学校に関しては3kmという形で行っているので、③の学区が広がることによって、1.5kmプラス1.5kmで3kmとなると、例えば交通安全の指導面では、今以上に指導が必要になるというところでデメリットとして入れたものである。

(委員長) 通学時間というところでの考え方だと思う。基準ではないが、現状ではこのようにして取り組んでいるというところである。

(副委員長) ③のデメリットについて、委員も意見を述べられたが、この地区は既にコミュニティ・スクールとして、三校でいろいろな形で情報を共有し、同じ歩調で歩んでいる。始めに三校の学校運営協議会のメンバーと一緒にその辺から決めていったこともある。③のデメリットについては、この地域がコミュニティ・スクールということを活用して、学校運営協議会と、地域学校協働活動推進員の活躍の場であるというふうに考えているので、これをデメリットではなく、逆に、こういう点は克服できるというふうに思っている。

(委員長) もう一つ、小中一貫校になると、小学校の子どもたちの面倒を中学生が見るので、そういう面での生徒指導の良さというのは大きいと思う。小学校一年生の子を中学生が見ようとする、普段はこの子心配だなというような中学生でも、気持ちを抑えて対応してくれたりする部分というものは、今も昔も変わらずあるのではないかと思う。それは、日々の生活の中で一緒に生活するため、とても優しくなるのではないかと自身は思う。そういう生徒指導面については、ここには書かれていないが、リーダーシップを発揮させると

という意味では大きいような気がするため、そんなところも見ていただけるとありがたい。「生徒指導」について中学校の現場から何か思うことはあるか。

(委員) ③のデメリットについては、赴任して布小区、南小区の地域の方々の協力の様子を見ていると、デメリットとしては当てはまらないというふうに感じている。生徒指導のトラブルとなると、中学生になると発達段階的に、小学校では起きないような大きな問題も起きるので、そういった問題に小中いろいろな教員が関われることは教員側としてはメリットが大きいと思う。また、問題があったときの消極的生徒指導に加えて、積極的生徒指導として行事や委員会活動を行うことにより、小学校1年生から中学校3年生まで一つの行事を行うとか、委員会活動で面倒を見ながらやっていくなど、そういったところはかなり効果が大きいのではないかと感じる。

(委員長) それでは、「生徒指導」に関してはよろしいか。③ではデメリットもあるが、概ねこれはクリアできそうなデメリットというところである。それでは3番目の「児童生徒理解」について事務局からの説明を願う。

(事務局説明)

(委員長) 子供たちの理解がしやすいというのはとても良いことである。小規模校だと先生が異動した後は大変である。この子はどうだったのか聞く相手がいなくなってしまう。その辺は、やはり苦しさの中に入るかと思うが、デメリットとしては出されていないが、そのようなことがあると考える。現場の状況を考えて「児童生徒理解」についてそれぞれの施設パターンでどんなデメリットがあるかとか、もしあれば話していただきたいが、南小はいかがか。

(委員) 自身も「児童生徒理解」という意味では、子どもたちの成長によってどんどん変わるものであり、特に思春期に入る時期が今早まっており、高学年から中学生へ向けての3年間で、子どもたちも大きく変わり、体も心も大きく変わるところで、施設一体型の方がそういうことを教員同士が把握し、みんなの目で把握できる。小学校から見たときにはこういう成長をしているけれど、中学校の先生から見たときには、生徒指導的にどうなのかということが共有できると、それは良いことと思う。

(委員長) 今、子どもたちの抱える問題も、中学校から小学校に事象が降りてきているなど、そのような話もたくさん聞くようになった。それぞれの発達に応じて多くの目で見て、先生方が関われるというのは大きいところではある。

一つの目で見ると、見方というのは偏ってしまうもので、できるだけたくさん  
の目があるというのは、それはいいことである。

次に、4番目の「児童生徒支援」について、事務局からの説明を願う。

(事務局説明)

(委員長) 児童生徒支援について、3つともメリットの方にフォーカスして挙げ  
ている。デメリットの方も見ていきましょうという副委員長からの言葉もあ  
ったように、そういう面について何か意見、質問等があったらお願いしたい  
が、私から1点伺いたい。②の施設形態については、布小と布中が一緒になっ  
たところについては、メリットはあると思うが、デメリットとしては、児童生  
徒の支援をする人が、南小の方が足りなくなってしまうというのを単純に思う  
ところである。

(委員) 今ももちろん三校の中学校区で考えたときに、②の場合は、南小だけ  
別なのだなと感じると思う。今は一緒だという感じであるが。日々一緒にいる  
かないかのメリットデメリットはあると思う。子どもたちにとって、毎日一  
緒にいるかないかというのは、人間関係の中でとても重要なことであり、子  
どもたちの日常がすごく変わると思うので、そういう中での友達関係という  
ところに非常に大きな要素があるのではないかと感じる。

(委員長) 支援というと、どうしても教員からの支援を考えるが、子ども同士  
の助け合う姿も大事である。学校規模が小さいと関係が固まってしまい、頼れ  
ない、頼る相手が見つからないという子どもたちも少なからず出てきてしま  
うのではないかと、というデメリットは感じる。

次に、5番目「教職員交流」について、事務局から説明を願う。

(事務局説明)

(委員長) 同じところにいることのメリットは当然見えやすいと思う。教員の  
交流というところではいかがか。自身もいろいろな小中学校で見ているが、今  
一番大変なのは若い先生が授業を見に行こうと思っても見に行く相手がいない  
というのが、こういう小さい学校の本当に大きなデメリットと思う。

2クラスあれば先生同士でどのような授業を行っているかと見たりすることは  
可能であるが、単学級ではそれはままならない。自身の大学の教え子で、初任  
で学年主任になった報告を受けた。千葉の南の方の小学校であるが、1学年12  
人しかいない学校で、現状をみると大変だという話をしたものである。教え子

からは「授業をどうやっていいかわかりません」とか、一番大変だったのは4月、5月の時期で、毎日どうしようと1人で悩んでいたとか聞いている。その辺も職員の交流でいうと大きいのではないかと思う。やはり、大きい学校の先生たちは相談しながら進めて行けるため、その辺のメリットは大きいと思う。複数でやり取りすると自然にできるというところである。

(委員) このテーマと少し違うかもしれないが、教育という面で見ただけの場合、③には疑問は持っていないが、①②の場合の入学式、卒業式、この日程調整はできるものなのか。小中一貫制度に取り組んだときに、布佐地区で一括して、何月何日は卒業式をやるということが可能なのかどうか、もし、可能だとすれば布小と布中は、3月10日とした場合、南小も3月10日にできるものなのか。入学式も各校でそのようなことができるのか。自身は分からないが、バラバラになっているとすれば、この制度にしたときに、一体化できないものなのか。その辺のところはどういうふうに理解したらいいのか。

また、運動会の日程については、③の場合、小中一貫になると運動会は同一日になるイメージである。自身は、そのようなイメージで見ているが、小中一貫制度になったときに、入学式や卒業式の扱いはどうなるのかを聞きたい。

(学校教育課長) 小学校・中学校の入学式、卒業式に関しては、各学校に自由に任せているのではなく、市内小学校全て統一、市内中学校全て統一で行っており、単独でそれぞれバラバラの場合であっても、小中一貫になった場合であっても、この日程についての変更はない。小学校は小学校で、中学校は中学校での日程で行う形になる。

運動会や体育祭については、学校ごとで行っているため、日程調整について、小中一貫になったときには、それぞれの学校で考えることは可能である。小中一貫校になったときに、小学校から中学校まで一斉に同じ日に運動会、体育祭を行うことも可能であり、また、発達段階というところで小学校段階での運動会、中学校段階での体育祭で、分け方を小中の6年、3年にするのか、また、高学年の方が中学校側と一緒にやるような形で区切りを自由にすることが小中一貫校の場合は可能となるため、その辺は、学校の中で決めていくということである。

(副委員長) これまで説明や意見をいただいた中で小中一貫校という言葉が出ているが、布佐地区は既に小中一貫教育を進めているため、学校施設の面から



の「施設一体型小中一貫校」の話をしているとして誤解のないよう気を付けてほしい。

(委員長) 学校行事などは、学校で決めなければならないものが当然多く出てくると思う。大きな行事である、卒業式、入学式については、市の方で統一して行っているというところである。

次に、本日配布の資料「教職員の配置数について」について事務局からの説明を願う。

(事務局説明)

(委員長) 小中一体型になった場合は、このような感じであるという説明であった。単純に言うと、三校あったのが一つにまとまるので、校長が2人減るとのことである。教頭の数を見ると、副校長も含めるとあまり変わらないというところである。教員の人数的に見るとそのような見方になる。

(副委員長) 管理職という意味で、教務主任も管理職に入るものなのか。

(事務局) 教務主任は管理職ではない。

(副委員長) 現在、教務主任は各校1名ずついるが、例えば一体型になったときには人数が減るものなのか。

(学校教育課長) 一体型小中一貫校になった場合には、小学校が1名、中学校が1名という形になるので、教務主任の方は2名である。

ただ、副教務という形で置くことは現在でも可能なため、校長判断で増やしていくことはできる。

(委員) 資料上段の管理職とか学校事務職員、養護教諭はメリットがあるが、教員の数、現在の布小の実働教員の数は何人で、南小は何人で、布中は何人で、それが統合すると教員の数は何人となるかという数字を分かれば教えていただきたい。

(事務局) 現状、令和5年度であるが、県費負担教職員で人数の説明を行う。布小は16名、南小が15名、布中が22.5名で、小数点になっているが、これは0.5人という形でハーフの人の数え方で小数点になっている。続いて、南小はそのまま、一体型小中一貫校を建てる場合の職員数は、南小は先ほど同様15名で、布小・布中を一体型にした場合についての職員数は、38.5名である。ただ、この数え方に関しては、例えば、加配教員であるとかそういった人数につ

いて、今年の人数をそのまま算出している。続いて、三校を一体型小中一貫校にした場合の人数は、45.5人の教員数になる。

(委員) 今の数は、多分、校長・教頭も入っている数、また事務職員も入っており、栄養士も県費や市費の方もいるため、できたら後ほど、教員の数、実働教員数を教えていただきたい。小学校単学級で布小の場合だと11人で、南小だと何人いて、中学校は何人で、それが統合すると何人ぐらいになるかという数を今度教えていただきたい。

(委員長) 単純に教員で、教科指導を行う教員を数えていただきたい。

(事務局) 現状で布小が12人、南小が10人、布中が18.5人である。布小と布中の一体型小中一貫校になった場合については、30.5人である。そして、三校を一体型小中一貫校にした場合については、37.5人での計算である。

(委員長) 単純な足し算ではない、ということである。

(委員) 南小の人数の計算について、普段は新木小に勤務し、週1回だけ南小に勤務している先生を知っているが、その方はこの人数に入っているのかどうかを教えていただきたい。

(委員) 先ほど事務局で述べた人数には入っていない。

(委員長) 教職員配置数に関する項目については以上で終わりになり、次に「保護者」と「地域」に関するところに進めたい。それぞれ、3つの施設形態のメリットデメリットについて議論したい。

まず、「保護者」から進めたい。保護者組織については、3つのパターンでそれぞれどんなメリットデメリットがあるかというところで、保護者の組織やPTAなどが挙げられる。そういうのを含めて意見をお願いしたい。

(委員) 「保護者組織」の①、現状の規模間では現状のデメリットになるが、我孫子市内の他校に比べて、布小は母数が少ないため、なり手が少ないという問題がある。PTAなのか、保護者組織なのかは置いておいて、どうしても役割が出てくることで、1年生から6年生のうちに役員、本部役員や学級委員などを1人1回はお願いする状況で、人によってはそれを負担とを感じる方もいる。②に関しては、南小の方は存じ上げないが、南小だけ残る場合はおそらく同じような問題点が残ると想定する。②③のメリットは同じとは思いますが、PTA会長をしていて、他校との親交を踏まえて話をすると、母数が増えれば色々な活動ができる。布小は、PTAバレーボール部の活動者が少なく休んでいるが、人数が

多い他校の場合は活性化しやすく、ママさんバレーだけでなく、親父の会があるような小学校もあり、人数が多ければこのような活動ができ、良いことだと感じる。

（委員長）母数が増えても参加してくれるかは分からないが、可能性としては広がるということである。南小の現状はどのようなようか。

（委員）南小も布小と同じように毎年、役員や運動会・バザーの係を何かしら行う。役員とクラス委員に関しては、6年間で必ずどちらかは行うという流れで、毎年、2・3年生のときは、前年度に決めており、3年生の年度末に4～6年をいっぺんに決めて、みんな役割を行うようになっている。仕事を持っている両親が多いが、そういった方も、まんべんなく役員をやることになり、役員同士、毎年メンバーも変わるので、その引き継ぎ資料も試行錯誤しながら行っている現状で、やはり1学年1クラスだと厳しい実感はある。布小の方にあるPTAバレーや、他校の親父の会といったものは、南小には存在せず、多分人数が増えたからといってやるような方はいないかな、というのが現状である。

（委員長）人数が少ないと必ず全員やらなければという強い縛りがある。なかなか大変だと思う。

（委員）学校と保護者との間の中で組織というのは、PTA、学連協、学校運営協議会等であるのか。そのような組織、グループの集まりがあると思う。その他にあるかどうか、まずそれをお聞きしたい。そういうものが小中一貫教育制度になったときに、その組織がどのようなになるのか、その方々をどのように任命するのかのなど、参考までにお聞きしたい。

（教育長）学校と保護者の組織では、PTAという組織があり、他に学連協（学級委員連絡協議会）という組織がある。市内19校中18校がPTA、南小のみ学連協という形式になっている。学校運営協議会は令和4年4月1日に設置している。我孫子市の学校をコミュニティ・スクール化するために学校運営協議会を設置し、それに伴い地域学校協働活動の推進本部を整備したところである。これは保護者の関係というよりも、学校と保護者と地域というところに入ったのが学校運営協議会である。

（委員長）あとは、先ほど出てきた親父の会みたいなのを立ち上げている学校も何校かはあると思う。このPTAが三校一緒になった時に、どのようにして決めていくのかという質問があったが、これは、三校のPTAの役員が集まり、話

し合いを持ち決めて行くのではないかと思う。三校で会議を持つ場所は当然作られると思う。

(委員) 南小の学連協の補足であるが、元々PTAがあったのではなく、最初に作ったのが学連協だったという話を過去の保護者の方から伺っている。なぜ学連協になったのかという詳しいところまでは分からないが、学連協の位置づけというのは、バザーや運動会の手伝いはするが、先生方と何をしよう、これをしようということまでは関わっていない。また、PTA活動の一環のベルマークの回収等も行っていない。

(委員長) 学校規模によってできること、できないことがあるので、最初の人たちが考えて取り組んだのかもしれない。南小の学連協の活動報告であった。次に「放課後保育」について、現状のときと二校が一緒になったときと、三校が一緒になったときというところで、それぞれどんなメリットデメリットがあるのか意見をいただきたい。現状の把握をしたいと思うので、学童保育、放課後の居場所のあびっ子クラブの話をしていただけないか。これが三校一緒になった場合、どのようになるのかが分からないため。

(委員) 放課後の保育については学童保育があり、子どもたちの遊び場としてあびっ子クラブがある。学童保育・あびっ子クラブの所管は、市の子ども支援課である。学童保育も民間委託で行っている学校もある。利用に関しては保護者が申し込み、子どもを預けている。また、学校帰りにあびっ子クラブに寄って帰る児童もいる。両施設は学校の校舎内であってその中で活動している。

(委員長) 通っている子どもたちは多いものか。

(委員) 布小は高学年でも学童保育、あびっ子クラブに1、2人くらいは通っている。1年生も10人であるが多数入っていると思う。低学年の利用が多い。

(委員長) 南小はいかがか。

(委員) 状況的には布小と同じである。働いている保護者の方が多いため、やはり低学年の利用はとても多いと思う。

(教育総務部長) 自身は、去年まで子ども支援課で担当していた。学童保育については、親が勤めている児童を預かるものであるのに対し、あびっ子クラブについては、放課後に学校で過ごした後に帰るという形である。学童の方については、基本的に両親のどちらかが迎えに来るため、それぞれの学校の敷地内の教室の中にある学童保育が、例えば一体型になれば、今度はどちらか一方に

なるのか、それとも学童に関しては地域性をみて、二つになるか分からないが、迎えに行くということについては、今までよりは距離が遠くなるという問題は出てくると思う。あびっ子クラブの方は自分で帰ってくるが、学童保育については、親の勤務が終わるまでは学校で安全に預かるという仕事である。親が迎えに行くという所を理解していただければそれで違いが分かると思う。

(委員長) 学童保育は、親が迎えに行かなければならないため大変である。あびっ子クラブの方は、放課後遊び終わったら下校していくところである。三校が一緒になった場合も無くなるわけではない。

(委員) 今市内の学校では、民営化の学童とかもあると思うが、その民営化になる基準など何かあるのか。新木小は民営化になっている。

(教育総務部長) 特に基準はないが、最初に民営化された我孫子第三小学校については、提案型の民営化制度があり、そこで採択され初めて行った。実際に行ってみて、公営と大きな違いがないため、民営化についての門戸が開いた状態である。また、一番大変なのは、現場で学童保育の担い手となる会計年度任用職員が少なくなってきたため、人員を集めることであり、民営化によってその成り手についての募集をかけてもらったというのが今までと大きく違ってきているところである。柏市などは、おそらく、初めから民営化という形でのスタートのため、我孫子市とは少しやり方が違っていたという感じである。

(委員) 今後、他の学校、湖北台東小学校や湖北台西小学校等も民営化になる流れはあるものなのか。

(教育総務部長) 学童保育の担い手は今のところ足りている状況であるが、やはり担い手の方々も高齢化が進んでいるという部分がデメリットとしてある。その方々が、もうこれ以上できないとなったときに、その次に入っていく方々がいなくなると、やはり、民営化を考えていかざるを得なくなると思う。

(委員長) 湖北地区も民営化になる場合もあり得るのか。

(教育総務部長) 十分あると考える。ここ数年は今の状態でしばらくは続くかもしれないが、高齢化が進んでおり、もうこれ以上はできないという話が多くなれば、今度はどこを民営化しようという話し合いは持たれると思う。

(委員長) 新しく三校一体型が出来たなら、その中でどう対応するのか、最初から民営化からスタートするのか、それとも公営で行っていくのかという点では、その辺もまた議論にはなるのかと思う。

次に、「地域コミュニティ」について、3つの場合のメリットデメリットの方をお聞かせ願いたい。事務局に確認したいが「保護者」「地域」の中に「地域コミュニティ」とあえて2つに分けている理由はあるのか。

(事務局) 今回、それぞれの視点をカテゴライズしたときに、保護者と地域というふうに分けたため、それぞれの立場から見たということで、同一項目にはなるが分けて入れているものである。

(委員長) それでは、保護者から見た地域コミュニティというところで、意見をいただきたい。

(委員) 布佐地区では布佐中区のコーディネーター、評議員というような話しをしたが、先行して行っている。三校の会長とは定期的に情報交換をしている。それとは別に、前のコーディネーターが地域学校協働活動推進員というものに変わり、この方々も各学校に2人ずついる。これも定期的に年4回会議があり、その前にコーディネーター同士で情報交換をしている。比較的他の地区よりも先行して、学校にこういう話をした方が良いのではないかという形では前向きにしていると思う。

(委員長) 布佐地区は昔から地域の繋がりが強いところである。資料の地域での地域コミュニティという視点が強いかなとは思う。そこに保護者も関わってくる部分もあると思う。情報共有ができていくという意見であった。

(委員) 話は変わるが、4月の終わりに布中でフィールドワークを行った。2、3年生の授業支援ということで、布佐中学校区のコーディネーター、布佐地区の社協のメンバーの協力で、布佐エリアの6ヶ所を回り、語り部さんがいて、いろいろな話をしたときに、南小出身の生徒は意外に布佐のことは知らないと、布小出身の生徒は聞いたことあるとか、そういう話が初めて今回参加して理解できた。これを機会に、この三校がもちろん小学校も中学校も歴史ということが大事だと思うが、これを定期的にやることによってさらに地区の繋がりが大事だということを痛感したので、是非継続していきたい。三校一緒になることによって、布佐のいろいろなことが分かり、中学生でそういう勉強をしたから大人になってもまた布佐に戻ってきたいとか、他の都市に行くのではなくて、是非布佐に戻ってきたいというような形で勉強していただいたらいいと感じた。

(委員長) 資料下段の「地域交流」にも少し関わるような感じでもあるが、小学校間のギャップが一体化されれば、埋まっていくのではないかと、その学校の中での活動を定期的に広げていっていただければという意見であった。

(副委員長) 地域コミュニティについて発言させていただく。小中一貫教育というのは布佐中区から始まり、もう相当年月も経っている。他の委員からの話があったように、布佐の地域ではそういったものが浸透していると思う。小中一貫教育という観点から見たときに、一体型の校舎というのは、まさに理想的だと思っている。小中一貫教育を行って、これをさらに進化させるためには、例えば一体型の校舎とすることで、先ほども教職員との交流などでいろんなメリットが出てきた。布佐の小学校に行くと、こういうことを学べるなど、例えば何か一つ特化させるものや、将来的の話だが、布佐の学校へ行くと、例えば理数系に特化している、他の科目が秀でているといったようなものを強調し、他の学区の方からも布佐の学校に行きたいと思う構想を作っていくべきだと思う。それに伴い、学区の変更も必要になるため、是非、この一体型の校舎を作ることのメリットということに、皆さんにお願いしていきたいと思っている。

(委員長) コミュニティも含めて、布佐の特色を打ち出していきたいという意見であった。他の地区からも来てくれるくらいに、何か明確な打ち出しがあり、魅力発信できればいいと思う。委員からも話があったが、地域との交流でこんなことが勉強になったと話をいただいた。このような内容について、今のままの方が良いとか、3つ一緒だとかという点で交流しやすくなるのかなとか、そういう意見があればいただきたい。

(委員) 地域交流という意味で見れば、①は日常から学校と地域住民が繋がっている。運動会があれば父兄や祖父母でなくても地域の方は参加している。自身は南小の学校の近くであるが、仮に小中一貫校になった場合、運動会となると、今の布中の校庭のイメージで良いのか。やはり、運動会は今までどおり南小のグラウンドでやるようになるのか、その辺のところは地域の交流という意味が少し違ってくるのかと思う。自身は南小のまち協の関係を行っているので、地域として南小とは30年来の付き合いがある。そうすると、今度、小中一貫校になったときの付き合い方や連携が心配だなと思っている。布小、布中は、布佐の地区のまち協と非常に地域としての繋がりがあがるため、その辺のと

ころの付き合い方が、この小中一貫校になったらどうなるのかというのが、疑問というか、不安というか心配事として悩むところである。

(委員長) まさに、三校ともそれぞれに地域と繋がって動いているところである。これが一体型になったときに、どうなるかなと単純に言ったら、南小に歩いてきた地域のおじいちゃんおばあちゃんが、布中の方で行う場合、そこまで歩いて行けないため、離れていってしまうというのは想像できる。この辺の一体型した場合とそうでない場合のメリットデメリットの話はいかがか。まだ体育祭は行っていないが、布中ではどれくらいの地域の人があるのか。

(委員) 自身も今年度赴任し、コロナ禍でもあったので、昨年まではどうなのか把握していないが、以前布中に勤務していた頃は本当に協力をいただき、昨年も地域の方がテント張りの協力をしてくださった。今年はこのままいけば制限なく行えると思うため、地域の方に開放して見に来ていただきたいと思う。この前の合唱会においても運営協議会の方に参加していただいており、徐々に行っていければと思う。また、建て直すとなったときは、いろいろあると思うが、グラウンドスペースとかそういったところについては分からない。

(副委員長) 布中の体育祭では、それぞれ自治会員を中心にテント張りを行っている。地域の方々が自治会会議において、持ってきてくれて、張って、終了すると撤去して持ち帰るという協力関係が以前からある。また、最近の生徒数が少ないということが原因だと思うが、体育祭も早く終わってしまうものである。昔は生徒数も多くいろいろな競技が行われたものだ。最近では、保護者と一緒に参加しようということも出てきているため、そういった意味では保護者が出てきてくれているという印象を受けている。

(委員長) 小さい学校の運動会だと、本当に種目を作るのも大変ということを知ったことがある。そういう意味で三校一体になったときには、内容も充実して、当然見に来る人も増えると考えられる。他に地域交流についていかがか。

(委員) 先ほど委員から、三校にした場合の南小の子どもたちの運動会や行事に関して、布中学校になると遠くなり行けなくなるのではないかと、布佐南近隣センターも南小と長い付き合いがあるが、この子どもたちが布中に行くために関わり方はどうなるのかという質問があった。三校一体型となると南小からは遠くなるが、子どもたちの数は増えるわけである。



やはり子どもたちが増えることによって、南小の近隣センターの付き合い方も、前は南小、布小と分かれていたが、今度、一体型になるとそういうものが解消されて一つの学校という認識を持って、活躍されるのではないか。子どもたちが一体化になるわけであるため、大きな枠の中で、接し方ができると思うし、我々もそういう望みを持っている。

(委員長) 今後、一緒になった場合は、一緒に頑張ろうという動きになっていけたらいいということである。

それでは、最後に「防災」について意見を伺いたい。

(委員) 防災については、例えば南小、布小、布中ということで、一つ一つ比較するものか。

(委員長) 例えば、三校を一体型としたときに、1つの校舎であったら、旧布中、旧布小のところに一体型の校舎が出来れば、旧南小のところは、何かに活用していくようなことになるかと思うが、現状では三校でそれぞれ防災活動について行っている。これが一緒になったときは、どういうメリットがあるかなど。例えば、避難所一つをとっても、当然、南小区の人たちは、南小に避難したいということや、それぞれの学校へ避難するというのが一番単純と思うが。そういうものを加味して、メリットになる部分とデメリットになる部分が出てくるということである。それぞれの学校の防災の状況がどうなっているのかを比較してもあまり意味がないため、現状は委員のみなさんも分かっているため、もし、これが一体化したときのイメージならどういう防災に関するメリットデメリットが出てくるかということを考えていただきたい。

(委員) 現在、南小は避難場所になっている。①の三校建て替えの場合は、そのままのため、我々住民は南小へ避難すれば良いが、仮に③になった場合、避難場所の建物自体は南小のまま残るものなのか。建物自体がもし残るとすれば、その管理者はどうなるのか疑問である。また、避難とは関係ないかもしれないが、今南小の体育館は、放課後に市民の方が使っている。一体型小中一貫校になったときに、南小の建物自体がどうなるのか疑問が残る。

(教育長) 今述べられたような懸念されることに関して、どんどん話していただき、今後、今年度末に方向性を決めるという話は皆さんにしており、その際に、こういう懸念されたものに関しては、このように解決できるとか、こうい

うような形にしたいなど、そういったものを出した上で決定していきたいと考えている。

(委員長) 例えば防災については、現状で3つの場所で行っているため、避難のときは、現状を維持したまま一体型になっても、布佐地区にもきちんと残してほしいと言うのは、これは言えないことではないと思うので、それをどのように考えて、市の方でどう作るかということになるので、要望ではないが懸念されることは挙げて良いと思うので意見を伺いたい。

(委員) もし三校を一体型小中一貫校にして、布中の場所が避難場所になったときに学区的には布中だが、我が家の場合は、距離的に新木小の方が今の布中よりも近いので、緊急避難となると、距離的に近い方が雨嵐の中、安全と思うため、新木小に行きたいし、我が家の周辺も新木小、湖北中に通学している人もいるので、そういった近所の人と一緒に避難したいと思う考えもある。そういった場合は、どちらに避難しても良いのかという方向性を考えていただけるとありがたい。

(委員長) 避難時は、一番近いところへ行くのが良いと思うが、その辺で何か決まりがあるのか。

(教育長) 所管外のため、確認しないと言えないが、今現在、南小に在籍していて、震災時には南小に行かず新木小に行っても良いかということであるか。

(委員) 現在我が家は、南小に通学しており、布中に行く予定である。もし、嵐や震災が来て緊急避難となった場合、南小が避難場所になっているので南小に行くように周知しているが、今後、南小が一体型になったときに、校舎が使われなくなり、布中に通っており、しかし、新木小の方が避難場所として近いので、近所の方と新木小に行こうとなったときに、新木小に行っても良いのか。それとも学区内のため、布中に行った方が良いのかどうかと思う。

(教育長) 避難場所に関しては、やはり安全安心が優先されるので、この辺は十分検討し、こちらの方でもよく揉んだ中で決めていきたいと思う。

(委員長) 検討事項の中に入れて検討していくということになると思う。

(委員) 自身も長い間消防団を行っていて、防災というと、利根川を対象にしている。利根川が氾濫した場合どうするかということで、布佐の住民も南小に行くことになる。それはなぜかということ、成田線があつてそれ以上、水は行かないだろうという発想である。その時の状況により利根川を対象とした避難場

所を考えている。新木小に通っていれば、新木小に行くというのは個人の感覚であり、全体的な防災対応に従い、その時に、どこに行ったら適切な避難ができるかというのを公表するため、それに従っていただければと思う。個人で判断せず、防災時の公表に従い行動した方が良いのではないか。

(委員長) そういうのも含めて新しいものを設置する場合には考えていかなければならないと思うので、よろしくお願ひしたいと思う。

時間が押し迫っているので、本日はここで一旦締めさせていただきます。項目に関係なく、まだこういう意見があるというものがあれば次回に討議いただきたい。本日はいろいろと意見をいただき感謝します。

また、事務局の方で先ほど説明した教職員の配置人数であるが、一貫校として合体して37.5人になった人数の根拠があれば次回資料にできたらいただきたい。こういう想定で行うから、クラスはこのようでこのような数になるというものがあれば良いと思うのでよろしくお願ひしたい。

本日はこれにて終了する。

(以上)

次回開催は9月12日(火)を予定しています。